



フォレスト
サポーターズ

山形県森林協会は、『美しい森林づくり推進国民運動』を推進しています。

森林やまがた

No.191

2021. 1

やまがた美しい森林づくり推進大会 (第67回 山形県林材業年次大会)



前掲「森林・林業・木材産業の課題と今後の展開」

講師 林野庁 次長 浅川京子氏

目次

新年のご挨拶.....2
 令和2年度 川村造林記念山形県林業賞.....3
 眺海の森・遊学の森の指定管理者の指定.....3
 令和2年度山形県森林管理推進協議会
 森林経営管理制度研修会開催.....4
 第34回山形県きのこ品評会開催.....5
 山形県再造林推進機構の取組みについて.....5
 令和2年7月豪雨災の被害と
 災害査定等の状況について.....6
 「やまがた緑環境税活用事業」
 「やまがたの森づくり発表会」を開催.....7
 県林業公社と県みどり推進機構の合併調印.....8
 山形県林業公社と山形県森林組合連合会による
 森林整備予算の要望活動について.....9
 みどりのページ
 東北・北海道地区の緑化功労者表彰.....10
 緑の募金公募事業「木育活動支援事業」の実施.....10
 緑の少年団「出前教室」.....10

森の人紹介
 佐藤 良造さん・百瀬咲也香さん.....12
 次代を担う若者による意見交換会(2).....13
 むらやま地域森の感謝祭2020
 村山市森づくりウィークの開催について.....13
 地域の絆で将来をつなぐ
 ～最上町立小路団地造林組合の取組み～.....14
 「芭蕉の森」整備10周年記念式典を開催.....14
 「おきたまの森」ホームキャンプ
 置賜地域のやまがた木育.....15
 鶴岡市緑の少年団、優良賞受賞.....16
 第13回クロマツシンポジウムについて.....16
 フォレスト通信 農林大学校林業経営学科から
 伐木競技に学ぶチェーンソーの安全技術.....17
 特集 高性能林業機械の現状と
 メンテナンスの重要性.....18～19
 普及情報
 林業労働と女性に関する研修会の開催について.....20

(表紙写真は、11月24日に開催されたやまがた美しい森林づくり推進大会)



新年のご挨拶

農林水産部参事(兼)森林ノミクス推進課長

齋藤 潔

令和3年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

皆様には、日ごろより本県の森林・林業・木材産業の施策の推進に格別の御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は7月下旬の豪雨により、河川が氾濫するなど、県内各地で甚大な被害が発生しました。被災された皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

森林においても、林地や林道施設の崩壊など、大きな被害が発生し、現在、関係省庁や市町村と連携し、災害復旧事業に全力を尽くしているところです。また、新型コロナウイルス感染症につきましては、全国で感染が拡大しており、本県においても、新規感染者の確認が続いている状況にあります。林業・木材産業の面でも、木材の流通の停滞など様々な影響が出てきておりますので、しっかりと対策を講じてまいりたいと考えております。

◆やまがた森林ノミクスの推進

県では、県土の7割を占める緑豊かな森林資源を「森のエネルギー、森の恵み」として県民総参加で活用し、雇用の創出や地域活性化につなげる「やまがた森林ノミクス」を推進しており、県産木材の安定供給や再造林の推進、県産木材の率先利用、林工連携の推進、人材の育成など川上から川下までの施策を総合的に展開しております。

これまでの成果として、県産木材生産量は平成28年の43万m³から令和元年は54万m³に、再造林率も平成28年度の32%から令和元年度は64%に大幅に伸びるとともに、平成30年度の公共施設の木造化率は全国1位となっております。さらに、人材育成の面でも、県立農林大学校林業経営学科の卒業生のうち、これまで23名が県内の林業事業体等に就職するなど、着実に取組みの成果が現れてきているところです。

このような中、利用期を迎える人工林の増大や集中豪雨等による山地災害

の多発、新たな森林経営管理制度の導入など、林業・木材産業を取り巻く情勢は大きく変化しており、持続可能な開発目標(SDGs)や脱炭素社会への関心の高まりとともに森林・林業・木材産業への期待も益々大きくなっております。

こうした様々な情勢の変化・課題に対応できるよう、公益財団法人の山形県林業公社と山形県みどり推進機構の統合による新法人を「やまがた森林ノミクス」の推進母体とする新たな体制を構築し、森林経営管理制度の市町村支援や県民総参加の森づくり活動、体系的な森林環境学習等の取組を強化するとともに、ICT等の先端技術を活用した効率的な森林整備や県産木材のサプライチェーンの構築、公共・民間施設の木造化等の取組を推進してまいります。また、理論に裏付けられた高度な実践力を身に付けた人材を育成する東北農林専門職大学(仮称)について、市町村や産業界と連携し、令和5年4月開学に向けた準備を進めてまいります。

さらに中長期的な取組については、昨年策定された「第4次山形県総合発展計画」において、「やまがた森林ノミクス」の加速化として、県産木材供給量70万m³、再造林率100%を令和6年の目標として掲げており、今年度中に同計画に即し、今後4年間の本県の農林水産業の指針となる次期農林水産業元気再生戦略や、今後10年間の森林・林業施策等のビジョンとなる次期山形県森林整備長期計画を策定することとしており、次世代に継承しうる森林づくりと若者が憧れる魅力的な林業を目指し、施策の方向性や取組内容を具体的に示してまいります。

今後も、林業・木材産業の振興と中山間地域の活性化等を推進するため、川上から川下までの総合的な施策を積極的に進めるとともに、森林ノミクスに関する情報発信に努めてまいりますので、皆様方の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本県の森林・林業・木材産業の益々の発展と、皆様の御健勝を心から祈念申し上げます。新年の御挨拶といたします。

〔県森林ノミクス推進課〕

令和2年度 川村造林記念山形県林業賞

本間文夫氏 株式会社シエルターが受賞

昨年12月2日に山形市のホテルメトロポリタン山形において、川村造林記念山形県林業賞の表彰式が行なわれ、受賞者の本間文夫氏と、株式会社シエルターに吉村知事から、表彰状と記念の盾が授与されました。



吉村知事を囲んでの記念撮影

◆川村造林記念山形県林業賞とは
本県の第23代知事、川村貞四郎氏が寄贈された山林を基金として、本県の民有林業の振興・発展に貢献した個人、団体を対象に表彰するた

め、昭和39年に創設された本県の林業界における最高賞です。

◆本間文夫氏（鶴岡市）



温海町森林組合長として、森林経営計画の作成と高性能林業機械

の導入を積極的に推進し、施業の効率化、労働生産性の向上を図り、素材生産量を増大させるとともに、再造林を推進するため、伐採跡地に伝統野菜「温海かぶ」を栽培し、その収益を再造林後の保育費用に充てる取組みを開始するなど、地域林業の振興に貢献されました。

また、五十川生産森林組合長としての、組合周辺の所有者との森林境界の明確化と集約化施業を推進したほか、コンテナ苗の試験植栽、林床へのワラビ植栽による下刈り作業の軽減試験など、県が行う新たな森林技術の試験研究に協力し、地域林業の低コスト化施業の模範となりました。

◆株式会社シエルター（山形市）



県産材の流通拠点倉庫の整備やプレカット三次元加工機等を導入

し、曲線加工など新たな木材建築のデザインにも対応した木材の加工・製造に取り組みました。

また、世界初となる3時間の木質耐火部材「COOL WOOD」を開発し、木造による15階以上の高層建築を実現。更に、荷重支持部に、集材ではなく、一般製材を使用する新技術を開発し、地元で製材できるA材等による大型木造建築を可能にし、木材利用の拡大に貢献されました。

加えて、森林から産出された木材の適切な加工・流通を証明するFSCとSCECのCOC認証を取得し、エンドユーザーに対する合法木材の使用の重要性など、木材利用の意識醸成に取り組みました。

◆おわりに

このたび受賞されました方々に心からお祝いを申し上げますとともに、ますますのご活躍を祈念申し上げます。

〔県森林ノミクス推進課〕

眺海の森・遊学の森の指定管理者の指定について

令和3～7年度における山形県眺海の森及び山形県遊学の森の指定管理者について、左記のとおり指定しましたのでお知らせします。

両団体ともに、来園者が安心して楽しめる運営や企画を提供していただきますのでぜひご利用ください。

| 施設名 | 所在地 | 指定した団体 | 指定期間 |
|---------|----------------|-----------------------------------|--------------------|
| 山形県眺海の森 | 酒田市土洲、山寺及び田沢地内 | 一般社団法人庄内森林保全協会 (現指定管理者) | 令和3年4月1日～令和8年3月31日 |
| 山形県遊学の森 | 金山町大字有屋地内 | 株式会社グリーンバレー神室 振興公社 (現指定管理者) | 令和3年4月1日～令和8年3月31日 |

〔県森林ノミクス推進課〕

山形令和2年度山形県森林管理推進協議会

森林経営管理制度研修会開催

◆はじめに

7月末に県内を襲った豪雨災害への対応のため延期されていた令和2年度第1回山形県森林管理推進協議会（以下、協議会）が、コロナウイルス対策をとりながら、11月19日に、山形市内で開催しました。

また、協議会に引続き、森林経営管理制度研修会（以下、研修会）を開催し、航空レーザ測量の活用方法について講義がありましたので、開催状況を報告します。

◆山形県森林管理推進協議会

今年度第1回目の山形県森林管理推進協議会であり、多くの市町村と関係団体の出席の中開催しました。

最初に、森林経営管理制度の取組み状況について、各市町村の進捗状況と県の市町村への支援について、森林ノミクス推進課から説明がありました。

次に、森林環境譲与税の使途について、令和元年度は、制度の開始初年度ということもあり、市町村では69%が基金に積立てられたが、本年

度については、基金積立は約60%の見込みで、徐々に森林環境譲与税を

活用した事業が動き出している状況が報告されました。また、森林の災害防止・国土保全機能を強化する観点から、森林環境譲与税が前倒し増額されたことを踏まえて、できる限り間伐等の森林整備を積極的に実施するよう、県から説明がありました。

令和3年度以降の県の市町村への支援体制については、アンケート調査で最もニーズが多かった業務実行体制を強化するため、山形県林業公社と山形県みどり推進機構の統合による新たな公益法人を「やまがた森林ノミクス」の推進母体として位置付け、森林経営管理制度において市町村の実情に応じたきめ細かいサポートを行う組織とする考え方が示されました。

森林経営管理制度において重要となる、林業経営に適する森林を効率的に判別する上で有効な技術の1つである航空レーザ測量は、市町村担当者の高い関心が集まっています。

既に実施している市町村もあります。経費が高いということが大きな課題の1つとなっています。

この問題を解決する方策として、公共測量の成果を利用することが検討されています。測量法第5条によれば、国又は地方公共団体が実施した測量は公共測量とされ、その成果は実施機関以外でも利用可能となっています。県内の民有林における航空レーザ測量の実施区域の分布図と市町村ごとに公共測量の成果を利用する場合の実施経費の試算が示されました。



第1回山形県森林管理推進協議会

今後の航空レーザ測量の進め方については、公共測量の未実施箇所を市町村と県が共同で計測し、解析については市町村が主体となり、それぞれ必要な解析を行うという方向性が提案されました。

◆森林経営管理制度研修会

協議会で主要なテーマとなった航空レーザ測量について、講師の株式会社パスコ東北事業部事業推進室の齋藤室長から「航空レーザ測量とその活用方法について」と題して講義して頂きました。

「航空レーザ測量で何ができるか」という、市町村の担当者にとって最も知りたいテーマについて、豊富でカラフルな画像を用いて活用事例が紹介されました。森林資源の解析、森林境界の明確化、林分の目標林型の検討、林業経営の適地の判断など森林経営管理制度の運用に有用なデータが航空レーザ測量により得られることが紹介されました。

講義に引き続き、県内の航空レーザ測量の活用事例として、大石田町、金山町、米沢市、川西町の事例が森林ノミクス推進課から紹介され、県内の先進事例を学んで、研修会を終了しました。

〔県森林管理推進協議会〕

県産きのこのさらなる品質向上を目指して逸品が集結！

第34回山形県きのこの品評会開催

〇きのこ生産者の逸品が集結

令和2年11月26日(木)から27日(金)の2日間、第34回山形県きのこ品評会が、新庄市の最上広域交流センター「ゆめりあ」を会場に開催されました。

この品評会は、きのこの品質と栽培技術の向上を図るとともに、生産意欲の高揚を図ることを目的として、山形県山菜・きのこ振興会が主催し、毎年この時期に開催されています。

今年も県内各地から、主要7品目の見事なきのこが出品されました。

〇農林水産大臣賞は庄司慎吾さんに
1日目に開催された審査会では、森林研究研修センター所長鈴木立男氏を審査委員長とする13名の審査員により、傘の形や厚み、色など数項目について審査が行われました。

審査の結果、主な受賞者は次のとおりとなりました。

【農林水産大臣賞】

庄司 慎吾 氏(最上町)

生しいたけ(菌床)

【林野庁長官賞】

渡辺 謙太郎 氏(大江町)

生しいたけ(原木)

【山形県知事賞】

井上 勝敏 氏(鮭川村)

なめこ(ビン)



審査の様

2日目には、交流広場での表彰式のほか、出展されたきのこの展示・即売会が行われました。次回も、より多くの生産者から出品していただき、栽培技術の高さを披露していただきたいと思えます。

県では、県産きのこのブランド力のアップを目指し、品質向上に向けた取り組みを推進してまいります。

〔県森林ノミクス推進課〕

～山形県再造林推進機構の取組みについて～

山形県再造林推進機構では、伐採後の再造林の確実な実行を促進するため、県産木材の出荷販売、仕入販売、購入、自家消費及び立木販売を取扱う事業所等から、1㎡当たり20円の協力金または寄附金を募り、それを原資とする基金から、再造林経費10%相当分を助成しております。

令和元年度は、1200万円を超える多大な金額を寄せていただきました。また、再造林については、約40ha(43箇所)を対象に約4百万円の助成を行いました。

協力協定森林組合・事業所の皆様に深く感謝申し上げます。

〔山形県再造林推進機構〕

再造林基金造成に御協力をいただいた協力事業所のみなさま

【協力協定森林組合】

山形県森林組合連合会、山形地方森林組合、天童市森林組合、西村山地方森林組合、北村山森林組合、東根市森林組合、最上広域森林組合、金山町森林組合、米沢地方森林組合、西置賜ふるさと森林組合、小国町森林組合、出羽庄内森林組合、温海町森林組合、北庄内森林組合 《以上14組合、敬称略》

【協力協定事業所】

(有)青野製材所、上妻林業、(株)旭林業、(株)阿部製材所、(株)阿部林業、(有)荒井材木店、荒生木材(有)、安楽城林産(株)、(株)荒正、五十嵐幸一、(株)石川製材所、(合同)イズミ、(株)岩浪木材センター、(株)ウェルランド、(株)ECOグリーン米沢、NKCながいグリーンパワー(株)、(有)遠田林産、おきたま木材乾燥センター(株)、(株)沖田木材産業、金上林業、岸三郎兵衛、木村製材所、(株)キムラ林業、協和木材(株)新庄工場、グリーン・サーマル(株)[DSグリーン発電米沢(合同)分]、(有)小関興業、(株)佐藤工務、佐藤製材所、(株)佐藤林業、(有)佐藤林産、三英興業(株)、(株)下山製材、(株)庄司製材所、(有)庄司林業、庄内ウッド、(有)新庄林業、須藤林業、(株)大和、(有)高菊林業、(合同)高清組、(有)高橋林業、(有)たくみまさの、東北ウッドカッター(株)、中津川バイオマス(株)、西垣林業(株)酒田事業所、日本製紙木材(株)酒田営業所、(NPO)ひびぎ、(有)古澤製材所、(株)北越マテリアル新庄工場、(株)北越マテリアル米沢工場、(株)北桜林業、前田製材所、マルカ林業(株)、(株)武藤林業、(株)もがみ木質エネルギー、山一木材、(株)山形城南木材市場、(協)やまがたの木乾燥センター、(株)ヤマムラ、山元林業協同組合、(有)山六製材、(株)結城林業、(有)渡部製材所、(株)渡会電気土木 《以上64事業所、五十音順・敬称略》

令和2年7月豪雨災の被害と 災害査定等の状況について

◆はじめに

令和2年7月は日本付近に停滞した前線の影響で、暖かく湿った空気が継続して流れ込み、日本各地で記録的な大雨となり、大規模な河川氾濫や土砂災害、人的被害や物的被害が発生しました。7月27日から28日にかけては東北地方を中心に大雨となり、山形県でも7月27日から非常に強い降雨となり、降り始めからの雨量は300ミリメートルを超え、例年の7月の降雨量に相当する量が2日間で降り、過去最大の雨量となりました。

◆被害状況

この豪雨により、最上川が新庄市、大蔵村、大石田町、村山市、河北町、大江町で氾濫するなど、各地で多くの住宅や農地等に浸水被害が発生しました。道路、河川、農林水産業などの被害は、432億円（11月末現在）となり、過去最大の被害額でした。

農林水産関係被害では、林地被害や林道施設の被害、林産関係施設の



被害など966箇所、水稻などの農作物等の被害が2,614ヘクタール、農地・ため池の法面崩壊や土砂流入、農道・水路の被害など農地・農業用施設が3,190箇所、水産関係施設の被害が12箇所など、被害額は134億円（11月末現在）でした。

◆林地被害と林道施設の被害状況と災害査定状況等

林地被害は22箇所、9億6千万円、治山施設被害が7箇所、3千3百万円でした。その中で、保全対象等の重要性から緊急に対応が必要な箇所について、国の災害関連緊急治山事業（1箇所）2億1千万円、県単独治山災害関連緊急事業（24箇所）9千8百万円で、復旧工事を実施しています。

林道施設の被害は、328路線、924箇所、約12億8千3百万円でした。その中で、大規模で緊急に復旧する必要がある林道については、国庫補助を使った林道災害復旧事業に36路線、51箇所を災害査定に申請しました。今回の災害査定は、被害が甚大であったため山形県の林道災害では初めて「大規模災害査定方針」の適用を受けることとなり、机上査定金額が引き上げられました。災害査定は10月に3週に渡り実施され、査定決定事業費は6億2千9百万円、査定率は90・3%となりました。

また、その他の被害を受けた林道については、山形県林道等小規模災害緊急復旧事業により市町村の林道復旧を支援しています。

路体欠壊 林道災害復旧事業で対応



◆おわりに

これから、本格的な降積雪期を向えます。積雪に伴う雪崩等の山地災害の発生が危惧されるところです。災害はいつ起こるかわかりません。山地災害発生のおそれのある箇所については、関係市町村との緊密な連携のもと、なだれ注意報や融雪注意報等の気象情報に十分注意しながら警戒巡視・点検を実施するとともに、地域住民や観光施設等の利用者に対し、あらかじめ危険箇所や避難場所の確認をお願いします。

〔県森林ノミクス推進課〕

「やまがた緑環境税活用事業」 「やまがたの森づくり発表会」を開催しました

◆はじめに

「やまがた緑環境税」を活用した森づくり活動を広く県民の皆さんに発信し、県民参加の森づくりを推進するため、11月22日（日）に山形ビッグウイングで「やまがたの森づくり発表会」を開催しました。

◆森づくり団体のポスター発表等

会場では、「みどり豊かな森林環境づくり推進事業」実施団体・市町村及び「やまがた絆の森づくり」参加企業・団体から、地域住民が参加する森林整備や、様々な世代が取り組む森林環境学習等について、ポスターや報告書による発表があり、情報交換が行われました。



講演の様子



◆代表発表

団体等を代表して、鮭川村自然保護委員会、関未拓せみたくの会、岡崎医療株式会社、長井市の計4者から発表がありました。いずれの発表も森林や自然環境を地域の宝として自分たちの手で守るという理念のもと、地域の課題に対応した森づくり活動を展開しており、今後活動を実施するうえで見習う点が多い報告でした。

◆講演

「生物多様性の視点から森林を考える」と題して、環境省自然環境局生物多様性戦略推進室長の中澤圭一なかつけいいち氏から講演をいただきました。

森林の生物多様性を保全するため

には、様々な樹種、構造、林齢の森林をモザイク状に配置することが必要である等、森づくり活動の意義を考える上で大いに参考となる内容でした。

◆緑化関係表彰状の伝達式

令和2年度の全国育樹活動コンクールで、山形グリーンライフ女性の会（山形市）が国土緑化推進機構理事長賞を受賞し、表彰状が授与されました。表彰は、全国育樹祭で表彰式が行われる予定でしたが、コロナ感染症拡大の影響で今年中止となり、代わりに表彰状の伝達を当該発表会の中で実施したものです。



伝達式記念写真
(山形グリーンライフ女性の会)

◆おわりに

参加者からは「他団体の活動を知って参考になった」などの感想をいただき、今年の発表会も森づくり活動の活性化につながる大変有意義な会となりました。県では、今後とも県民参加の森づくり活動を積極的に支援してまいります。「県みどり自然課」

森林とのかけ橋をめざす 総合アドバイザー

(一財) 日本森林林業振興会 秋田支部

Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林づくり等活動を支援する法人です

秋田支部 支部長 木村大助

〒010-0001 秋田市中通5-9-49
TEL 018(832)4040 Fax 018(835)6837

山形出張所 所長 佐藤宏一

〒990-2473 山形市松栄1-5-41
TEL 023(647)8450 Fax 023(674)0109

県林業公社と県みどり推進機構の

合併調印について

去る10月16日、山形市のあこや会館において、県農林水産部高橋部長と環境エネルギー部杉澤部長のご臨席をいただき、公益財団法人山形県林業公社と公益財団法人山形県みどり推進機構の合併調印式が執り行われました。

一 合併の経緯と目的

山形県林業公社は、昭和42年の設立以来、県産木材の安定供給と森林整備による森林の公益的機能の維持増進、地域林業の活性化を目指し約16,000haの森林を造成・整備してきました。

一方、山形県みどり推進機構は、平成12年に山形県緑基金から改称し、林業従事者育成基金などと合併しながら、緑の募金や地域の緑化推進、林業担い手の育成・確保、高性能林業機械の導入支援、森林公園の管理などに取組んできました。

この間、山形県では県内の豊かな森林資源を「森のエネルギー」「森の恵み」として活用し、雇用の創出と地域の活性化につなげる「やまがた

森林ノミクス」の推進により、大型

集材材工場の稼働や公共木造施設の増加による木材需要の増加が図られてまいりました。さらに今後は、東北農林専門職大学(仮称)など担い手育成への期待、令和元年度からの森林経営管理制度の運用や森林環境譲与税への対応など、市町村や林業者、森林所有者へのきめ細かい支援が求められています。また、地域の緑化や木育の推進、活動団体への支援については、従来の窓口別の対応ではなく、総合的で効果的な支援が求められています。

こうした森林・林業を取り巻く状況の変化に対応し、「やまがた森林ノミクス」をさらに加速させ、県の施策の推進役となる新たな組織として、林業公社とみどり推進機構の合併を行うものです。

二 調印式

合併調印式は、前日に開催された両法人の理事会での合併承認を受け、林業公社・みどり推進機構両法人の代表である今井敏理事長が、両法人

の合併契約書に署名する形で行われました。

ご来賓を代表し、高橋農林水産部長からは合併により両法人のノウハウや総合力を活かした活動に期待するとのご祝辞をいただきました。

三 合併後の法人

合併後の法人は、林業公社を母体として両法人の機能と、市町村や森づくりに取り組む県民各層への支援を拡充し、森林整備や地域の森づくり等様々なニーズに対応できるように体制を構築してまいります。

(公財)山形県林業公社)

(公財)山形県みどり推進機構)

山形県林業公社・山形県みどり推進機構

合併調印式



合併調印式の様子



緑の募金

皆様からのご好意により寄せられた「緑の募金」は、身近な環境の緑化から、森林の整備、緑の普及啓発活動、森林環境学習など、さまざまな緑化活動に役立てられています。

ふるさとの緑の推進に、私たちは取り組んでいます。

公益財団法人 山形県みどり推進機構

理事長 今井 敏

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265
TEL 023-688-6633 FAX 023-688-6634

ご協力を
お願いします



山形県林業公社と山形県森林組合連合会による 森林整備予算の要望活動について

山形県では、県土の約7割を占める豊かな森林資源を積極的に活用して林業・木材産業を振興し、雇用創出と地域活性化につなげる「やまがた森林ノミクス」が展開されています。これにより、大型集成材工場の稼働や公共施設・民間施設の木造化・木質化が進み、県内の木材需要が大幅に増加するなど、その成果は確実に現れています。

一方、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を受けて、今年度は林業・木材産業でも活動が停滞し厳しい状況にあります。

また、令和2年7月の豪雨災害では河川の氾濫による浸水被害をはじめ、山地崩壊や林道等の被害などが発生しており、水源かん養や土砂災害の防止など森林の公益的機能の高度な発揮には、間伐等の適切な森林整備が不可欠です。

こうしたことを受け、地域の林業の担い手である森林組合を代表する山形県森林組合連合会と、森林整備法人である山形県林業公社は連名で要望書を作成し、去る10月5日県庁

において高橋農林水産部長と齋藤参事に対して、森林整備事業及び林道・作業道などの路網整備、林業のICT化、高性能林業機械の導入促進に向けた令和3年度当初予算の増額・確保を要請しました。

高橋農林水産部長からは県内林業・木材産業の現状と要望内容について御理解をいただきました。

林業公社としては、これからも県産木材の安定供給や森林管理、木材生産の効率化を図るとともに、県や市町村、林業団体と連携して、地域での施業集約化や林道など路網整備の推進に積極的に取り組んでまいります。
〔公財〕山形県林業公社



高橋農林水産部長への要望



「山菜・きのこ」を食べて健康生活！
きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。

旬の贅沢 やまがたの山菜・きのこ

山形県山菜・きのこ振興会

〒990-2339 山形市成沢西4-9-32 ☎023-688-8100

**森林の適正な管理に努め、公益的機能の維持増進を図るとともに、
農山村地域の雇用創出と林業振興に貢献します**

公益財団法人 山形県林業公社 理事長 今井 敏

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265番

TEL 023-666-6348 FAX 023-689-9348 E-mail : y-ringyo@atlas.plala.or.jp

ホームページ : <http://business3.plala.or.jp/y-rkousy/>



みどりのページ

東北・北海道地区の緑化 功労者表彰 織田洋典氏

東北・北海道地区緑化推進協議会が表彰する令和2年度緑化功労者に、本県からは、「たこじい」の愛称でおなじみの織田洋典氏（南陽市）が選ばれました。

織田氏は、NPO法人美しいやまがた森林活動支援センターの理事長として、森林の循環と、環境と人が共生できるライフスタイルを目指す「森の11（イレブン）事業」を実施し、緑化運動の普及啓発に取組んでこられました。

地元の飯豊町中津川地区での活動にも精力的で、源流の森では、源流の森インタープリターとして積極的に活動され、平成15年までは源流の森インタープリテーション協会の初代会長も務められました。現在も、小学生を対象とした体験プログラム「森林の学校」などで、多くの子どもたちに森林や自然の魅力を伝えておられます。また、中津川森と暮らしの学校校長としても、もりもり元気塾（地域資源を生かし人々との交流を図りにぎわいを創る）や、山里の暮らし体験塾（地域の伝統的な生活を体験し生活の技を伝承する）を

実施しながら、地域との交流を積極的に推進されています。

現在お住まいの南陽市でも、森に因んだゲームを創案した「大森林祭・もりんピック」の開催や、同市が各保育施設で実施する「森へ行こうよ」自然環境学習事業での指導など、地域の森林環境学習の推進に大きく貢献されています。

織田氏の功績に心から敬意を表するとともに、今後益々のご活躍を祈念申し上げます。

表彰式は、青森県で開催する同協議会総会において行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で書面開催となったことから、11月22日に山形ビッグウイングで開催された「やまがたの森づくり発表会」において伝達を行いました。



織田氏へ表彰状を伝達

緑の募金公募事業「木育活動支援事業」の実施について

県民の皆様からご協力いただいた「緑の募金」は、森林の整備や身近な緑を増やす活動などに活用しております。今年度は、「緑の募金公募事業」における新たな取組みとして、「木育活動支援事業」を実施したところです。

この事業は、県内の森林整備に繋がる木材の利用促進と、木育活動の普及を目的として、県産木材を活用した木製品の購入を助成するものです。交付金額は1件あたり10万円を上限としています。県内の幼稚園、保育所、児童館等を対象に募集を行います、11件を採択しました。



木製屋台で遊んでいる様子
(宮内双葉保育園)

そのうち、南陽市の宮内双葉保育園では、県産スギ材を使用した木製

屋台の購入に活用されました。園児たちがお店屋さんごっこなどに使えるよう、園庭に設置されています。木の温もりが感じられる遊具は子どもたちにも人気なようで、おままごとをしたり、座って休憩したり、さまざまに使われているようです。

他の施設でも、ベンチやテーブル、積み木、助木、寄木トレイなど、さまざまな木製品の購入に活用され、子どもたちの木育活動に役立てられています。

緑の少年団「出前教室」

山形県緑の少年団連盟では、県内の緑の少年団を対象に、講師の派遣や教材の提供などにより活動を支援する「出前教室」に取組んでいます。このたび、3つの少年団で活動を実施しました。

◆真室川北部小学校みどりの少年団

- 1 期 日 10月22日、29日
- 2 参加団員数 13名
- 3 内 容 校庭の樹木調べ、炭焼き体験

2日間にわたって、地域の森林について理解を深める活動を行いました。校庭の樹木調べでは、樹木医の先生に教えていただきながら、どんな木が生えているのか、どんな特徴が



みどりのページ

入れて、パーベキュー用のコンロで燃やした木炭

を事前に学校周辺で集めました。材料を空き缶に

炭焼き体験では、森林インストラクターの先生の指導のもと、空き缶を使った花炭作りを行いました。子どもたちは、どんぐりやクリ、クルミといった木の実や草の実、きのこ、葉っぱ、小枝など、思い思いの材料



手作りの樹名板を取付け

あるのかを学びました。校庭をぐるっと一周しただけで約20種類の樹木が見つかりました。中でも、アメリカ原産の珍しい「リギダマツ」が植えられていたことには、子どもたちも驚いていました。それぞれに気に入った樹木を選んで、木の名前や特徴、葉っぱの絵などを書込んだ樹名板を作り、取付けました。

添川小学校の学校林で、間伐や施肥などの森林の手入れを行う予定でしたが、現場周辺でクマの出没が相

3 内容 学校林活動

◆いいで緑の少年団



親子でテーブルを組立て

木工品を自分の手で作ってみる活動として、テーブル作りを行いました。釘打ちを何回か間違えたとか、インパクトドライバの使い方が難しかったなどの感想も聞かれましたが、親子での体験ということ、それぞれに協力しながら作ることができました。

の上に載せ、1時間ほどででき上がりしました。
◆二井宿みどりの少年団（高島町）
 1 期 日 11月7日
 2 参加団員数 22名
 3 内 容 テーブル作り



疲れている木に肥料をあげよう

次いだことから、フィールドを校庭に変更して活動を行いました。講師には、NPO法人美しいやまがた森林活動支援センターから2名の先生に来ていただきました。
 森を育てるための草刈りや肥料について紙芝居で学んだあと、中学年と高学年に分かれて、落ち葉などを使ったネイチャーゲームを行いました。校庭にもいろいろな樹木があることや、針葉樹と広葉樹の違いなどを楽しく勉強しました。高学年は、「弱っている木」や「疲れている木」も探し、元気になるようお願いを込めて、全員で肥料を与えました。

〔(公財)山形県みどり推進機構〕

緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま(R2.10.1~11.30)

(山形県みどり推進機構取扱い分)

(株)アーレスティ山形、(株)アライドマテリアル、(株)安藤組、飯鉢工業(株)、衣袋建設(株)、(株)ウンノハウス、F.M.P.カンノ(株)、エムテックスマツムラ(株)、(株)小澤商店、オビスン(株)、(株)柿崎建設工業、北日本特殊イサベラ建設(株)、共和防災建設(株)、(有)桐生建設、(有)クリーンセンター七五三、小白川建設(株)、(株)サンユー技研、(株)三洋、(株)十字電子、(有)ジョイランチ、庄内環境緑化事業(協組)、庄内たがわ農業(協組)、白鷹ライオンズクラブ、森林研究・整備機構森林整備センター山形水源林整備事務所、須川工業(株)、大金電子工業(株)、大伸建設(株)、(株)大和エンジニア、(株)高橋組、(有)高島清掃、中央公害清掃(株)、(株)テトラス、東北エプソン(株)、東北電機鉄工(株)山形支店、(株)トーホー、(株)ナルセ、日東ベスト(株)、日本地下水開発(株)、農林中央金庫山形支店、東日本チェーンソーアート競技大会実行委員会、本間建設(株)、(株)マツダ建設、三ツ和工業(株)山形工場、(株)メコム、(株)山形銀行南山形支店、山形県商工会連合会、山形県土地改良事業団体(連)、山形酸素(株)米沢(営)、山形信用金庫、(株)ヤマザワ、(株)ヤマトテック、米沢中央ライオンズクラブ、米沢松岬ライオンズクラブ、米沢ライオンズクラブ、(株)ライナー (敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました

森の人紹介

株式会社 荒正
森林施業プランナー
佐藤 良造さん



森林施業
プランナー
として活躍
する、株式
会社荒正
(以下…荒
正)の佐藤良造さんを紹介いたします。

佐藤さんは、山形市生まれで、御実家はもともと工務店を営んでいたそうです。御自身も、以前はハウスメーカーで営業の仕事をしていたという経歴があることから、林業の川上から川下の状況をよく理解しており、その経験は森林施業プランナーの仕事としても大いに役立っています。

現在は、林業部管理課に所属し、主に伐採現場での施工管理業務を担当しています。令和元年に森林施業プランナーの認定を受け、まだ経験は浅いですが、自社が所有する森林の森林経営計画(約35社)を立てて実行しています。

仕事で気を付けていることは、

「やはり民間企業ですから、コスト管理については常に気を付けています。当社では、プロセッサやハーベスタなど一通りの林業機械を所有していますが、これらの林業機械をどれだけ無駄なく稼働させられるかが求められます。」とのこと。

また現在、荒正には、10名の森林整備担当職員がいるようですが、「年齢的には、私が中堅になります。現場での作業技術はベテラン職員に全くありません。ベテランの技術をしっかりと引き継いで、それを若手に伝えていきたいです。」と、後進への技術継承にも積極的に取り組んでいます。

そんな佐藤さんの趣味は、ロッククライミングと登山。ロッククライミングは、山形市の山寺や仙台市近郊の岩場に行つて楽しんでいるそうです。最近では、仕事や子育てに忙しいこともあり、休日に奥様、お子さんと一緒に近所の山に行つて散策するのが楽しみのことです。

「荒れた森林を見るのが大変残念に思えます。今後は、山林の整備を通じて地域に貢献していきたいと思っています。」と意欲を燃やしています。

〔村山総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

山ガール
百瀬 咲也香さん
今回ご紹介するのは北庄内森林組合の百瀬さんです。



一般企業で総務、企画や営業などを経験されていましたが、もともと山登りが趣味で自然と関わるのが好きだったことから、森林環境を守つていく仕事につきたいと思い、平成30年に同組合へ就職されたそうです。

以前の職場は規模が大きく、意思決定が柔軟に動きにくいところがありました。今、職場はスピーディーに仕事が進むように感じられています。

総務を担当している百瀬さんですが、まだ経験が浅くわからないこと

が多かったことから、上司から森林組合監査士の取得を勧められ、寝食を忘れるほど努力した結果、見事に資格を取得されました。なお、この年は百瀬さんの努力にほだされた3人の先輩職員が林業技師の資格を取得しました。

この勉強では簿記や監査だけでなく森林環境を取り巻く現状や法律などを学べたことから、これを業務に役立てるようにさらに勉強を続けていきたいとのこと。

休日には、自宅から歩いて行ける金峯山や百名山の鳥海山・月山などによく登られているようで、組合に就職するまでは、何気なく利用していた登山道でしたが、森林組合に入つてからはその整備の大変さを目の当たりにし、より感謝する気持ちが強くなったそうです。

百瀬さんは、これまでの経験を生かした総務の能力に加え、現場にも興味を持たれ、研修でプロセッサ操作を進んで体験するなど、非常に積極的で、好奇心旺盛です。

そのバイタリテイで北庄内地域の森林・林業の活性化の一翼を担っていただきますようご期待いたします。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

次代を担う若者による意見交換会(2)

◆はじめに

先進的な取組みをしている林業・木材関係企業が多い村山地域では、木材の新たな利用を進めるため、新しい発想を持つ若手の経営者や技術者等が自由に意見を交える「次代を担う若者による意見交換会」を令和2年2月から行っています。今回は今年度の活動内容をご紹介します。

◆意見交換会の概要

令和2年8月6日(木)に開催した第2回目の意見交換会では、山形県産材を活用して開発したい製品について、事前にアンケート調査した結果をもとに、アイデアを出し合いました。



第2回意見交換会の様子



第3回意見交換会の様子

11月10日(火)に開催した第3回目の意見交換会では、山形大学東北創生研究所 准教授 村松真氏のご提案により、会員同士の1対1によるマッチング検討会を行いました。前回のアイデアをもとに会員の持つ特技を出し合い、山形ならではの贈答品や木材と金属を組合せた製品などの意見が出されました。

◆今後の取組み予定

年度内にもう一回意見交換を行い、プロジェクトチームを作り、来年度は、実際に山形県産材を活用した試作品製作を目指しています。

〔村山総合支庁森林整備課〕

村山市森づくりウィークの開催について

◆はじめに

村山総合支庁では、今年度の「むらやま地域森の感謝祭」を新型コロナウイルス感染症予防対策に対応した内容で開催しましたので概要を紹介します。

◆新たな取組の概要

開催にあたっては村山市等と実行委員会を組織し、一般のコロナ禍での開催計画について協議を重ねました。その結果、密集・密接を避けて分散して参加していただけるよう、一定の期間を設けて森づくり活動の情報を発信するなど新たな内容に取り組みました。

具体的には、村山市甌葉プラザを会場として9月29日から10月6日まで「村山市森づくりウィーク」に設定してパネル展示や緑のプレゼントをウィーク期間内で実施し、密集しないように配慮しました。

ウィークの初日には、代表者のみのお出度によるオープニングセレモニーを開催し、実行委員長である松田義彦村山総合支庁長の開催宣言に続き、村山地域の森林・林業功労者として村山市の黒沼孝雄氏を表彰しました。



表彰状を受け取る黒沼孝雄氏

〔村山総合支庁森林整備課〕

また、これまでの代表者による植樹活動に代えて地域材を使ったプラントやベンチを学校や公共施設に贈呈することで地域材の利用促進をアピールしました。ベンチの組立てや設置にあたっては管内22社の事業者から地域貢献のボランティア活動として御協力いただきました。

さらに、村山市の特産品であるジュンサイの摘み取りに使われる箱舟も地域材で製作し、ジュンサイを振興する地区の団体に贈呈するなど特色ある取組としました。

◆おわりに

今後も、コロナ禍の中での取組の可能性を検討しながら県民参加の森づくり活動の情報発信に努め、森づくりの機運を未来に引き継いでいきます。

地域の絆で将来をつなぐ 立小路団地造林組合の取り組み

◆立小路団地造林組合の活動

立小路団地造林組合（代表二戸正志氏）は、昭和45年に最上町の立小路地区の61名で結成された組合です。当初は、スギの造林を昭和47年から49年の3年で78ha実施してきました。これにあわせて、地域の森林整備の基幹となる林道立小路線や土合線の維持管理を組合活動として長年にわたり積極的に取り組んでいます。この林道の総延長は、5,370mになります。さらに、平成20年と21年で間伐を実施して意欲的に林道の活用も行っていきます。



林道立小路線と維持管理作業に集まる組合員（写真左上）



現在、組合員は40名います。組合の年齢層は、30代から70代と幅広く、地域の後継者の大半が組合活動に参加されています。地域が一つになり、長年実施してきた森林整備や森林の利用を図る活動とそれを支える林道の維持管理の活動が認められて、このたび日本林道協会が実施した第43回林道維持管理コンクールにおいて林野庁長官賞を受賞しました。



左から組合員の奥山さん、齋藤さん、高橋最上町長、二戸代表、石山副代表

◆今後の活動について

立小路団地造林組合では、地域の財産である森林を将来にわたって継続して活用する取り組みを行うことで、地域の活性化を図っていきたくと考えて活動を進めています。

〔最上総合支庁森林整備課〕

「芭蕉の森」整備10周年記念式典を開催

◇「芭蕉の森」整備事業

最上町と町内堺田地区住民を中心とした「緑を愛する会」は、同地区の奥羽山の一面を「芭蕉の森」と名付け、交流拠点となる里山整備事業を行ってきました。現地では平成22年に植樹祭を開催して以降、平成23年には最上地域森の感謝祭・復興絆の森づくりの開催、平成24年には仙台市立中学校の林業体験活動などが行われています。

またこの間、緑を愛する会では、芭蕉の森の下刈りや除伐、遊歩道の整備といった森林管理活動、自前の芭蕉炭焼き窯を用いた木炭生産活動、町内の小学生や保育園児らを対象とした窯出しや植樹・植菌等の里山体験サポート活動をおして、里山の魅力づくりに尽力してきました。

◇10周年記念式典の開催

このたび、こうした活動が事業開始から10周年の節目を迎えるとともに、事業趣旨に賛同する町内業者から10周年記念碑の寄贈を受け、芭蕉炭焼き窯周辺に建立されたことから、去る10月27日に現地にて記念式典を開催しました。

式典当日は、関係者約50人が出席

しての記念碑の除幕式を行ったほか、あたごこども園園児が炭の窯出し、オオヤマザクラの植樹、ナメコの植菌の体験学習活動を行い、森への親しみを深めました。

町では、さらなる里山文化の保存、継承、整備充実を図るために、今後も町内で取り組まれている里山整備事業の推進に努めていきます。

〔最上町農林課〕



10周年記念碑の前で

「おきたまの森」ホームキャンプ

「置賜地域のやまがた木育」

●「おきたまの森」届けます

令和2年度、新型コロナウイルスにより様々な催しの開催が難しくなる中、「おきたまの森」ホームキャンプという試みは、そつと産声を上げました。

この取組みは、「置賜木」で作った木製ポットを紙やすりで磨いて仕上げ（木材利用）、苗木を植えて育て、来年の「おきたま森の感謝祭」や「絆の森」などのイベントで植樹（再造林）する、森林資源の循環利用を体験するものです。

10・5cmの角材を使用しており、コンテナ苗をそのまま植えることができず。同ホームキャンプは、置



置賜産スギ苗木ポット

賜地域の全ての緑の少年団員260名に参加していただき、各小学校で講座と体験活動を行いました。

●みんなが夢中な時間

子供たちは、作業に夢中でした。もちろん、初めのうちは緊張していま



協力して苗木を植える児童たち

したが、徐々にほぐれて、作業が始まると一斉に笑顔が咲きました。ポットを自分の思うように仕上げやすけり掛けは、参加していた先生や保護者も時間を忘れ、予定をオーバーしてしまふこともありましな。苗木をポットの中心に植えるのはなかなか難しく、土をこぼしたり、苗が斜めになってしまふます。どうやったらうまくできるのか、それぞ

れが工夫し友達と協力し合う姿に、大人たちの頬は、自然と緩んでいました。

●1年後も笑顔で！

みんなに喜んでもらえた「おきたまの森」ホームキャンプですが、まだまだ終わつたわけではありませ

ん。今回植えた苗木は、6か月生スギと2年生カラマツです。まだまだ手のかかる小さな苗木です。来年の植樹に向けて、みんなで協力して育てなければなりません。

「ありがとう！楽しかった！」元気な笑顔と一緒に教室へ向かった苗木たちは、1年後、どのくらい大きくなつてゐるかなあ。

苗木は、各学校で育てていただいでおり、定期的に育ち具合の調査を行います。また、卒業する6年生の苗木を、来年入団する児童が引き継ぐ学校もあるようです。

子供たちにとって、小さな苗木を長い間育てるのは初めての体験だと思ひます。やってみて初めてわかる難しさ、これから待つてゐる大変さが、きつとあるでしょう。

でも、そこが一番の学びなのです。〔置賜総合支庁森林整備課〕

“やまがた森林ノミクス”を推進します 山形県森林組合連合会

代表理事会長 佐藤 景一郎

〒990-2339 山形市成沢西四丁目9番32号
TEL 023-688-8100 FAX 023-688-8103

《県内13の森林組合とともに 山形の森林を守り 育て 有効活用してまいります》

| | | | | |
|----------|----------|-----------|-------------|---------|
| 山形地方森林組合 | 天童市森林組合 | 西村山地方森林組合 | 北村山森林組合 | 東根市森林組合 |
| 最上広域森林組合 | 金山町森林組合 | 米沢地方森林組合 | 西置賜ふるさと森林組合 | |
| 小国町森林組合 | 出羽庄内森林組合 | 温海町森林組合 | 北庄内森林組合 | |

鶴岡市緑の少年団、 優良賞受賞

全国緑の少年団活動発表大会



昨年度の発表の様子

令和2年度全国緑の少年団活動発表大会で庄内地区の鶴岡市緑の少年団が優良賞を受賞しました。庄内地区としては、昨年度の遊佐町緑の少年団の同賞受賞に続く2年連続の受賞となります。

令和元年度のサマージャンボリーと併催された緑の少年団活動発表大会で、この団の団員は学校も学年もバラバラですがすぐに打ち解ける事が出来る事や、JTの森鶴岡の活動に協力して海岸林を守る活動をしている事、どんぐりから苗木を育てて熊野長峰で行われている広葉樹林の

再生の試みに協力している事等を発表し、見事県代表に選出されました。残念ながら、全国大会はコロナウィルスへの対応として書面審査となつてしまい、他県の代表達の前で発表する機会はありませんでしたが、全国の舞台でも団の活動内容が評価され、今回の受賞へと繋がりました。今年10月に開催された緑の少年団庄内地区交流研修会の場で表彰状の授与が行われました。

団員の大半は受賞対象となつた活動をした当時とは入れ替わっていますが、2年前の先輩たちの活動がもたらしたこの榮譽を励みとして、今度は自分達が後輩達の誇りとなるような活動をしていける事を祈っています。



表彰状授与の様子

〔庄内総合支庁森林整備課〕

第13回クロマツシンポジウムについて

◆はじめに

庄内海岸林は、南北33km東西1.5〜3kmに及び、庄内地域の暮らしや産業を強風や飛砂、潮の害から防ぐため、先人が幾多の困難に立ち向かい植林した大いなる遺産であり、無限の可能性を秘めた観光資源でもあります。しかし現状は、手入れ不足、松くい虫被害、自然災害などで荒廃が進んでいます。このクロマツ林を健全な形で未来を担う子ども達に引き継ぐために、「今こそ見つめ直そう地域の宝庄内海岸林」をテーマに11月28日(土)酒田勤労者福祉センターを会場に2年ぶり13回目のクロマツシンポジウムが開催されました。

◆基調講演

「悠久の庄内海岸林

〜クロマツと歩む私の人生〜」

講師 梅津 勘一氏

◆話題提供

① 「出羽庄内公益の森づくり

20年の歩み」

庄内総合支庁森づくり推進室

小関 秀章 室長

② 「校歌に歌われたクロマツ」

生涯学習施設「里仁館」研修部長

佐藤 順子氏

③ 「庄内の自然と暮らしを歌う」
日和山楽団

◆おわりに

この度のシンポジウムは、ロータリークラブ地区補助金を活用した「庄内海岸林保全プロジェクト」の一つとして、酒田ロータリークラブが主催、庄内海岸のクロマツをたたえる会が共催で出羽庄内公益の森づくりを考える会の協力で開催されたものです。当日は、県外からの申込を断りながらコロナ禍でも約90名の参加があり、庄内海岸林に対する関心の高さと地域の宝であるクロマツへの熱い思いが感じられるシンポジウムとなりました。

そして現在、酒田市立資料館では、第218回企画展「飛砂に挑んだ先人たち―庄内砂丘植林の歴史―(令和3年2月14日まで)」が開催中であり、庄内総合支庁も資料を提供しているところですので、ご興味のある方はぜひ訪れていただきたいと思えます。

〔庄内総合支庁森林整備課〕



嘉永年代(1848-1855)に描かれた海岸絵図

伐木競技に学ぶチェーンソーの安全技術

◇近年、注目されているものに「伐木競技」があります。日本中の林業関係者が集まり、チェーンソーの技能を競う「日本伐木チャンピオンシップ（以下、JLC）」と世界大会である「世界伐木チャンピオンシップ（以下、WLC）」があります。

今回、ハスクバーナ・ゼノア社の御協力により、学生がJLC出場選手から伐木競技のルールと技術を学んだことから、その状況について報告します。また、最近の学生の様子についてもお伝えします。

○JLC/WLCに学ぶ安全技術習得法

JLCとは林業技術及び安全作業の向上並びに林業の仕事を一般に広め、林業の社会的地位向上を図ることを目的として開催される、チェーンソー競技の日本大会です。（隔年で開催、今年が開催年であったが新型コロナウイルスにより中止）5種類の競技（伐倒競技、ソーチェーン着脱競技、丸太合せ輪切り競技、接地丸太輪切り競技、枝払い競技）で技術を競います。ただ単に早く、正確であれば

良いだけでなく、装備や動作等の安全面についても採点の対象となっていることから、いくつかの林業大学校において、教育プログラムとして採用されています。



ソーチェーンの着脱競技体験

今回の講師として、ハスクバーナ・ゼノア社の縣毅史氏（2014 JLC出場）と福島県の秋山林業の秋山健人氏（2018 JLC出場）に来ていただきました。最初に縣氏から競技のルール及びメンテナンスの重要性、競技技術による安全と効率性に関する意識向上について講義をして

いただき、引き続き、秋山氏からソーチェーンの着脱競技、丸太合せ輪切り競技、伐倒競技のデモンストレーションをしていただきました。

その後、講師の指導のもと、学生が伐倒競技の体験を行いました。立木に見立てた丸太で15m先の目標をチェーンソーのボディ横にあるガンマークで狙いながら受け口を作り、所定の幅でツルを残せるように、追いつる伐りで追い口を作っていきます。学生は、微妙なスロットル操作でガイドバーを動かしながら目標への狙いを一生懸命定めていました。



JLC選手による伐倒競技のデモ

山形県からはJLCへの出場者は未だいませんが、いつかは本県から選手を出していければと思います。

○実践へのステップアップ（1年生）
入校から8か月が経ち、基礎から実践へのステップアップをめざし、講義や実習を通して知識と技術に磨きをかけています。これまで、チェーンソーや高性能林業機械などの資格を取得するとともに、測量や林分調査などの基礎実習に取り組みできました。特に、伐倒については基本

練習を徹底して行い、現在、県営林での間伐を通して、安全で確実な伐倒技術の習得を目指しています。今真剣に講義や実習に取り組み姿を見るとき、彼らが確かに一回り大きく成長したことを実感しています。

○卒業論文も終盤に入る（2年生）
9割の学生の就職の内定が決まり（11月末時点）、森林組合や素材生産業者又は造林会社の職員として4月から活躍する予定です。しかし、その前に卒業論文を作成するという大きな課題があります。12月の発表会で発表を行い、1月中旬に論文としてまとめ上げて提出しなければなりません。現在、約1年かけて取り組んだ成果を一生懸命まとめています。学生生活も残りわずかとなりましたが、一日一日を大切にしていきたいと思えます。

〔山形県立農林大学校〕

特集

高性能林業機械の現状とメンテナンスの重要性 (株)レンタルのニッケン

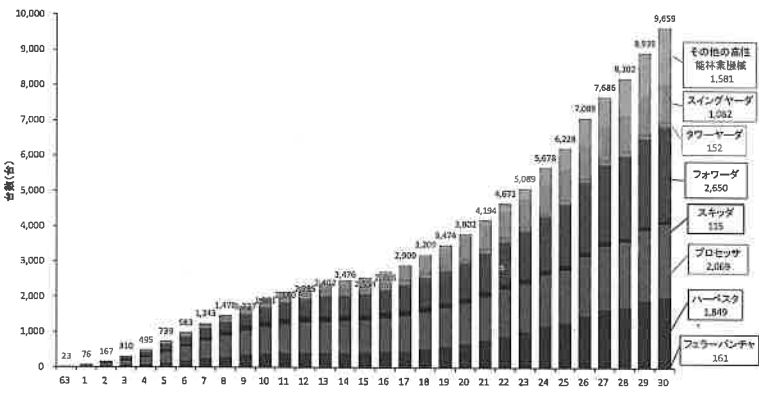
高性能林業機械とは、従来のチェーンソーや刈払機等の機械に比べて、作業の効率化、身体への負担の軽減等、性能が著しく高い林業機械です。山形県内においても高性能林業機械の導入が急速に進んでいることから、高性能林業機械の現状と機械のメンテナンスの重要性について、(株)レンタルのニッケンにまとめていただきました。

●はじめに

国内では、森林保全・整備のための路網と高性能林業機械を適切に組合せた低コストで高効率な作業システムの普及を目的に高性能林業機械の導入が進んでいます。

林野庁統計資料によると、平成30年度実績では、約9千700台が保有されるまで成長にしています。

しかし、高性能林業機械の導入が順調に進んでいる一方で、車両系林業機械の転倒事故などの災害が増えてくるのが懸念されており、新たな課題として受け止められています。



高性能林業機械の保有状況の推移 (30年度)

我が社は昭和42年に栃木県足利市で創業し、建設機械や各産業機械、イベント商品まで幅広い分野で活躍している総合レンタル会社です。高性能林業機械のレンタルを開始し14年になり、約500台を保有しています。近年、伐木、造材、集材等の作業

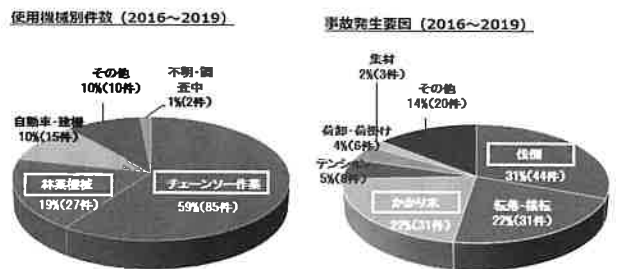
平成31年労働災害発生状況《厚生労働省資料》

| | 死傷者数 | 死亡災害 |
|--------------------------------|-------|------|
| 林業における全労働災害 | 1,248 | 33 |
| 木材伐出機械等による災害計 | 87 | 5 |
| 伐木等機械 | 45 | 5 |
| 走行集材機械 | 21 | 0 |
| 架線集材機械 | 15 | 0 |
| その他の車両系林業用機械 | 6 | 0 |
| 木材伐出機械等による災害の林業における全労働災害に対する割合 | 7% | 15% |

| 年度 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |
|--------------|----|----|----|----|----|
| 車両系木材搬出機械計 | 91 | 96 | 68 | 77 | 87 |
| 伐木等機械 | 48 | 56 | 39 | 37 | 45 |
| 走行集材機械 | 27 | 20 | 19 | 24 | 21 |
| 架線集材機械 | 12 | 15 | 7 | 11 | 15 |
| その他の車両系林業用機械 | 4 | 5 | 3 | 5 | 6 |

に高性能林業機械が導入されることに伴い、高性能林業機械が原因となる休業4日以上死傷労働災害が発生しており、高性能林業機械の導入と比例し増加傾向にあります。特に、フォワーダが路肩から転落する重大災害が数件発生しているほか、車両系林業機械で作業中に斜面でバランスを崩す災害も発生しております。車両系林業機械による労働災害の発生状況を確認すると、基本的な定期点検や、使用時の始業前点検により、機械の異常を早期に発見し、労働災害を未然に防ぐことができる重要性を再認識しております。

■事故の発生原因



●始業前点検の重要性

我が社では、高性能林業機械のメンテナンスは、建設機械と同じ基準で実施しております。徹底したメンテナンスにより、品質の維持とメンテナンスコストの削減が可能になります。

お客様が保有している高性能林業機械の修理コストが高額とのお話をよく耳にします。ご承知の通り機械が壊れてから修理するのが一番の高コストになります。これを未然に防ぐには、次の3項目を徹底し、予防整備を実施する事です。

- ① 年次点検 (1年以内の定期点検)
- ② 月次点検 (1ヶ月内の定期点検)

③ 始業前点検（日々作業前点検）

点検、検査で異常を確認した際には、直ちに補修などの必要な措置を講じることが重要であります。

これらを徹底し実施することで、高額な修理コストの削減だけでなく、高性能林業機械の整備不良に起因する労働災害を未然に防ぐことが可能となります。

建設業界では、建設機械の年次点検・月次点検・始業前点検は義務化されており、点検完了後には記録簿を作成して、事業主が書類を保管することが義務化されております。

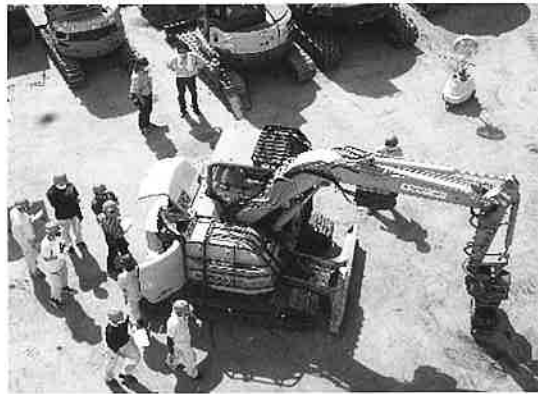
一方、林業業界は、始業前点検だけが義務化されており、年次点検・月次点検は《努力義務》とされており、点検記録簿の保管も義務化されておらず、メンテナンスの重要性が徹底されていないのが現状です。

● **安心・安全は予防整備の徹底から**
高性能林業機械の未点検や能力を超えた作業は、機械の品質保持ができないだけでなく、労働災害発生の原因にもなりかねません。

一昨年からは、各機関からの依頼を受けて高性能林業機械のメンテナンス研修会を各地で開催させて頂いております。

この研修会を通じ、年次点検、月

次点検、始業前点検の実施率が向上し、お客様が保有している高性能林業機械の高額修理のコスト削減及び品質保持と労働災害撲滅に少しでもお役に立てることができれば幸いです。



メンテナンス研修会の状況

※ レンタルのニッケンからのご提案

『保有から利用へ（レンタル調達）』単純に「レンタルとは」を一言で表すと「必要な時に」「必要な物を」「必要な数だけ」調達出来るということ。裏返せば「いらぬ時に」「いらぬ物を」「いらぬ数だけ」返却出来る便利なビジネススキームです。

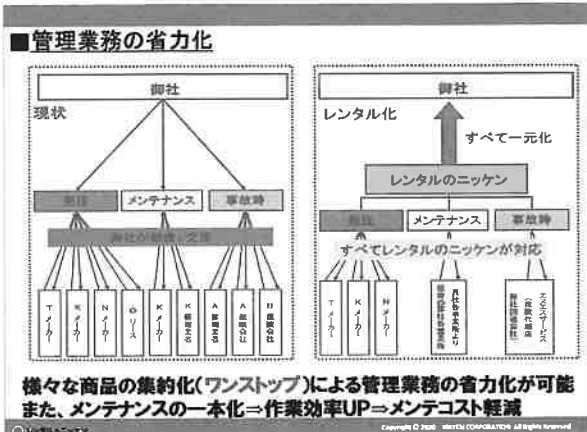
我が社は、全国に約240店舗とレンタル業界では最大規模の直営店舗を形成しており、お客様のニーズにお応えするため、営業所、機械センター、サービス工場をオンラインで結び、サービスネットワークを構築し迅速に対応しております。

建設業界だけでなく、他の産業界も機械の保有志向が強くなりましたが、レンタル機能の利便さ、安心・安全性から徐々に浸透してきており、建設業界では全体の70%がレンタル調達に至っております。

下記図を参照して頂き、林業業界の皆様も『保有から利用へ』ご検討をよろしく願います。

我が社は、お客様の戦略的パートナーとして、今後もレンタルを通して「安心・安全」な商品提供を行い、山形県林業業界発展に微力ながら寄与させて頂きたいと考えております。

（山形県森林協会）



■ レンタル・リース・割賦販売・購入の比較表

| 項目 | レンタル | 長期レンタル | リース | 割賦販売 | 購入 |
|---------|------------------|------------------|------------------------------------|-----------------------|----------------|
| 契約期間 | 短期 (時間・日・月単位) | 長期 (1年以上) | 長期 (3~6年が多い) | 長期 (3~6年が多い) | - |
| 契約形態 | スポット契約 | スポット契約 | シリアル契約 | シリアル契約 | シリアル契約 |
| 所有者 | レンタル会社 | レンタル会社 | リース会社 | ユーザー (所有権移譲が多い) | ユーザー |
| 利用者 | 不特定 | 特定 | 特定 | 特定 | 特定 |
| 資産・オフラン | 原則不可 | 可能 | 可能 | 可能 | 可能 |
| 物件 | 拠点保有商品 | 新品(中古可) | 新品(中古可) | 新品(中古可) | 新品・中古 |
| 物件代金支払 | - | レンタル会社 | リース会社 | 金融会社 | ユーザー |
| 経費処理 | 経費として IR会計上処理 | 経費として IR会計上処理 | 経費として IR会計上処理 (「オペレ-ティング」のみ) | 資産計上 (減価償却) | 資産計上 (減価償却) |
| 徴収・保険支払 | レンタル会社 | レンタル会社 | リース会社 | ユーザー | ユーザー |
| 中途解約 | 可能 | 可能(条件付) | 原則不可 | 原則不可 (地上げ減価償却不可) | - |
| 整備・修繕費用 | レンタル会社 | レンタル会社 | メテ付貸付リース会社 メンテナンスユーザー | ユーザー | ユーザー |
| 取組担保責任 | レンタル会社 | レンタル会社 | ユーザー 購入先 | ユーザー 購入先 | ユーザー 購入先 |
| 契約終了買取 | 不可 | 不可 | 契約内容により可能 | 代金返済時に 所有権移譲のオプション | - |
| 物件処分 | レンタル会社 | レンタル会社 | リース会社 | ユーザー | ユーザー |

林業労働と女性に関する研修会の開催について

（森林技術職員等技術研修）

◆はじめに

本県の林業就業者数に占める女性職員の割合は1割を超えており、今後女性ならではの視点や発想を更に活かしていくことが、「やまがた森林ノミクス」の新たな推進につながっていくと考えられます。そのためには、女性が働きやすい環境づくりを進めていく必要があります。

そこで、林業労働と女性に関する研修会を開催したので報告します。

◆研修について

日時 10月19日(月) 10～15時

場所 西村山地域振興局講堂

参加者 林業分野に携わる女性職員(県市、森林組合、森林管理署等)35名、県林業普及指導員等の男性職員6名

計41名

【午前の部 講座】男女共同参画の趣旨とワークライフバランスについて
講師 山形県男女共同参画推進員 石澤多貴子氏、植田美由紀氏

○内容

林業労働と女性について議論するには、男女の労働に関する基礎的な知識が必要であることから、初めに

男女共同参画とワークライフバランスについて講義を受け、その後理解を深めるための演習を行いました。

演習は、できるだけ所属の異なる男女混合の5名程度のグループに分かれて実施し、午後の意見交換に向けて本音で話しやすい環境づくりを意識しながら進めました。

【午後の部 意見交換】林業の職場と女性の関わりと現状と課題

○内容

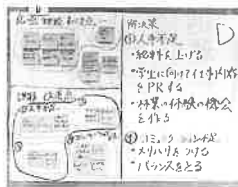
はじめに、県、森林組合、森林管理署の女性職員各1名から各職場での女性の労働状況について報告していただきました。その後、講座の演習と同グループで、各自付箋紙に女性が職場にいることの「良い点」と職場での女性の労働に関する「課題と改善点」を書いて説明しながら模造紙左側に貼付け、その課題の解決策を右側に書き込み、結果を会場の壁に張付けて意見交換を行いました。

良い点としては、職場の雰囲気や和み意思疎通が円滑になる、現場ですぐに覚えてもらえ人と人を繋ぐ役割を担うことができるなどの意見がありました。一方、課題としては、体

力、女性特有の体調不良、現場でのトイレ等が挙げられ、職場におけるサポート体制やルール作りが必要との意見がありました。また、男性の軽率な振る舞いとして、女性の前で現場での用足しや着替え、懇親会等での座席指定等が挙げられ、女性に対する男性の意識を変えてもらいたいとの意見がありました。



意見交換の状況



解決策等をまとめた模造紙



課題と改善点の整理



模造紙の前での意見交換

◆おわりに

参加者からは、女性の労働環境について考える大きなきっかけとなった、今後もこのような研修を続けて欲しいなどの意見が聞かれました。

今回の研修結果を参考に、来年度以降も林業界で女性の力を最大限に活かしていく方法について更に議論を深めていきたいと考えています。

〔森林研究研修センター〕

住んでよし 心ゆたかな木の住まい



株式会社

山形城南木材市場

- 木材製品市場
- 木材プレカット事業 (構造・羽柄・合板加工)
- 中大規模木構造建築・木工事・木質内装工事
- 原木市場 (杉、広葉樹等)
- JAS 認証工場 (機械等級)・木材乾燥・木材加工

〒990-2307 山形市表蔵王60番地の1

TEL. 023-688-2200

FAX. 023-688-2012

Email: jonan@mmy.ne.jp